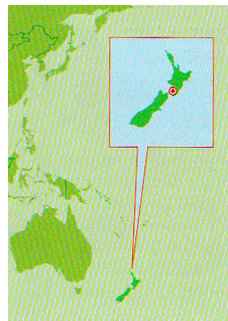


## 5064 <sup>くら</sup>久楽の世界の旅画像：NZ・タラナキ山・心模様

南半球、ニュージーランド、富士山と瓜二つ。エグモント国立公園、タラナキ山。

郷愁を誘う思いが重なった地球4周ひとり行脚。

日本出国から約一ヶ月が経過。タラナキ山との出会いは数年前に一度。



この作品は2000年ニューミレニアム。歴史的瞬間をニュージーランドでと探訪時の取材。

1999年11月、日本を出発、シンガポール経由、南島クライストチャーチ到着。

2000年1月までのニュージーランド、縦断ひとり旅。いつもの旅のスタイルである。

**11月の南半球は、日本の春。**クライストチャーチの美しいエイボン川や街並、  
気候の良さもあって、第一印象は最高！ **カンタベリー湾を左に南下。**  
**最南端のインバーカーギル**の街をめざした。さらに、北北西に進路をとり、**テアナウに到着。**

**西南端のフィヨルド、ミルフォードサウンドを探訪。そして、マウントクックへ。**

**山の向こうの背後にある氷河までトレッキング、**

東に、西に、南に、北に、道なき道での感動の出会いを求めて…

ウエストランドをさまよい、タスマン海を左に、**南島北端、フェリー乗り場**をめざした。

やがて、**ピクトン**へ、しかし、町らしい街が見つからない。

過疎だけに、自然がいっぱい、空気も美味しい。南島の旅、迷いながらも楽しんだ。

フェリーの出発は夕刻。何も決めない。宿泊しかり車で移動、最悪、車中泊も可能と楽観。

季節も最高。厳寒のアラスカではない。**南島は自然いっぱい。**

**反面、人恋しく**感じた時もあった。到着地の**ウエリントン**、首府である。

自然を堪能。**ネオンも見てみたい。このギャップ**が何とも面白く、違いも感じられると期待。

予約もしていなかったが、乗船できそうである。かなりの待ち時間がある。

山を見上げると高台がありそう。フットワークのいい久楽が登場。即実践。高台へ。

眼下の絶景。波止場も見えた。**汽笛がなぜか、身にしみる。日本を離れて、1ヶ月**近くなる。

ふと、どうして私は、ここに居るのか。今、**地球の反対側**にいる。

日本は師走の12月。あの友人は今頃どうしているのだろう。ご無沙汰ばかりしている。

しばし、人生を振り返りながら、物思いにふけた。



眼下の大型のトラックや乗用車の動きが目に入った。

遙か彼方からフェリーらしい船影が目に入った。すぐに立ち去るべきか否か。

結果、運良く画像記録を残せた。そして、フェリー乗り場に急いだ。